四つの附属中学校でサッカー交歓試合、三原中を会場に

Jリーグ現象でわが国のサッカー人気が急上昇している。サッカー熱はさめることなく、今後ますます盛んになるであろう。

そういった中で、今年の四月二日、附属中学校四校（附属中、附属東雲中、附属福山中、附属三原中）が附属三原中学校に集まり、サッカー交歓試合を行った。

最初の集いということで、余り肩肘の張らない形式で練習試合を行った。附属三原中学校サッカー部キャプテンの舛谷享祐君は次のようにその感想を述べている。

「先日、附属中四校による親善試合が行われた。どのチームもこの試合を通して、自分の課題を見つけることができたと思う。普段はこのような親善試合は滅多にないので、僕たちも多くのことを学べた。特に、勝敗にこだわらずに最後まであきらめずにプレーすることや、試合が終わるまで途切れない集中力は、とても参考になった。それぞれのチームに個性があって、とても楽しい試合ができた」。

（附属三原中学校　下森勇二）

西村清巳新学生部長就任

平成六年六月十六日付けで、教育学部の西村清巳教授（前学生委員会委員長）が学生部長に就任した。

西村学生部長は就任式で、「心と身体の健康、人の和を大切にし、学生の視点に立った大学行政を」と、学生部職員に抱負を語った。

南極地域観測隊員に附属高等学校　有田正志教諭が決定

このたび、第三十六次南極地域観測夏隊の一員として、附属高等学校　有田正志教諭が派遣されることが決まった。

有田教諭は、昭和二十七年生まれの四十一歳。専門は岩石学（花崗岩類）

（関連記事二十八頁）

文・岸田教授と川越教授、学教・田村教授、工・土井助教授、学会賞等を受賞

文学部の岸田裕之教授が第二十五回谷口記念賞、川越教授が第三回雄山閣考古学賞を、学校教育学部の田村咲江教授が日本家政学会賞を、工学部の土井康明助教授が日本造船学会賞及び日本造船工業会賞を受賞した。

留学生の教育・指導体制に関する意見調査報告書がまとまる

広島大学留学生教育調査研究会（研究代表者　三好信浩学生部長）では、平成五年六月に発足以来、小委員会（委員長　二宮　皓教授）で各種のアンケート調査や他地域における留学生教育の実態など多角的な調査研究が行われ、「広島大学における留学生教育の現状と課題―外国人留学生の教育・指導体制に関する意見調査報告書（平成六年五月）」が刊行された。

「まえがき」によると、「今回の調査は、本学の留学生、教官及び学生チューター経験者を対象としたアンケート調査と中国、韓国、インドネシア、マレーシアなどの留学生の面接調査の実施とともに自由意見調査を取りまとめた。…本留学生教育調査研究会報告書が私たち自身の留学生教育の再考への契機となり、新しい哲学や原則を導き出す論議を刺激するものとなれば幸いである」。

なお、併せて「広島大学における留学生教育改善についての提言」も公表された。

広島大学総合科学部二十年史刊行される

昭和四十九年六月に設置された総合科学部が今年二〇年を迎え、総合科学部二十年史委員会（委員長　小林　惇教授）により二十年史が刊行された。

体裁はA4版　一二七ページ。

内容は、①総合科学部創立の経緯、②学部、各コース・講座、大学院のあゆみ、③総合科学部二十周年によせての三部構成となっている。

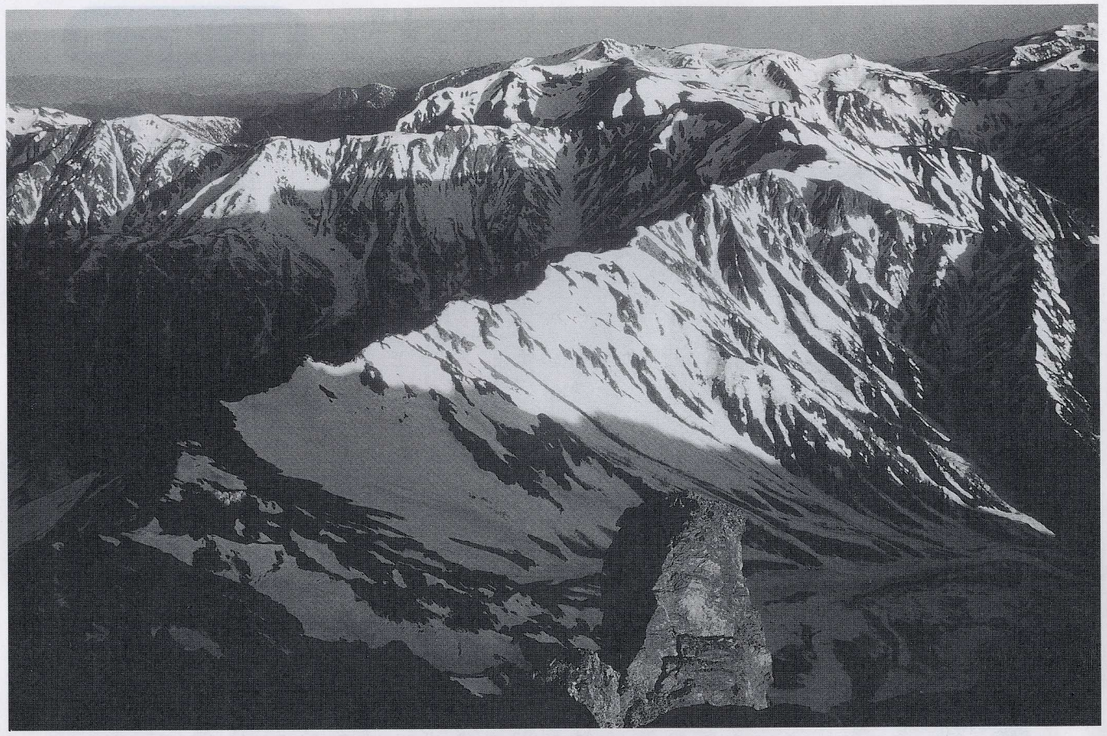
盛大に祝賀会開催、学長のバラニー・ゴールドメダル受賞を祝う

六月二十一日㈫　評議会終了後、部局長、評議員など学内関係者約七十名が出席して、学長の、バラニー・ゴールドメダル受賞記念祝賀会が、オープン間もないリーガロイヤルホテルで盛大に開催された。

バラニー賞は、一九一四年のノーベル医学・生理学賞を受賞したロベルト・バラニー（一八七六～一九三六）を記念して設立されたもので、バラニー学会事務局のあるウプサラ大学で五年に一度、内耳の研究で世界的に著名な業績のあった研究者に授与される。

過去の受賞者は九人で、十人目の原田学長は、日本人として初の受賞。

祝賀会は、吉永文隆評議員（医・医学科長）の軽妙な司会で進行し、終始なごやかな雰囲気であった。中学の同級生



葉佐井博巳教授（工）の学生時代のエピソードの披露には、爆笑の連続。珍しいユキ学長夫人（内科医）の挨拶には、内助の功を思い会場はしんみりしたムードに。

学長の挨拶も、「内耳の研究者で、私よりも偉い人はたくさんいた。が、みんな他の領域に浮気をした。三十年同じテーマを追求したのが認められた」と、いつになく神妙。

会は例のごとく学長のオーソレミオなどの余興と局長の乾杯で終わり、学長の意外な側面を思い出に、参加者は、三々五々小雨の降る夜の街に消えて行った。

オリエンテーション耐久レースは中止

広島大学体育会が七月二日、三日に計画していた耐久レースは、応募がなく中止となった。

涼を求めて

「槍ケ岳から朝日に輝く西鎌尾根」

朝方、山頂に登る。
雲ひとつない三一八〇㍍の山頂から、
昨日たどった西鎌尾根を見おろす。
ゆっくりと太陽は昇り、
残雪の尾根を少しずつ照らしてゆく。
なんとも言えぬ達成感。
最高の一瞬である。

（写真提供及び本文
経済学部経済学科三年　滝本勇紀さん）

広大生協 ベストセラー・トップ・テン

㈠知の技法　小林康夫・船曳達夫　東京大学出版会
㈡〔立花隆対話篇〕生、死、神秘体験　書籍情報社
㈢大学の醜聞　別冊宝島　宝島社
㈣南仏プロヴァンスの12か月　ピーター・メイル　河出書房新社
㈤ねじまき鳥クロニクル（第1部、第2部）　村上春樹　新潮社
㈥FBI心理分析官　R・K・レスラー　早川書房
㈦生命―四十億年はるかな旅　1巻　日本放送出版協会
㈧ワイルド・スワン（上・下）　ユン・チアン　講談社
㈨笑犬樓よりの眺望　筒井康隆　新潮社
㈩アムリタ（上・下）　吉本ばなな　福武書店

（生協調べ）

お詫びと訂正

本誌二十六期一号特別講演「大学改革の意義」中、第二図と第三図が逆になっておりました。訂正してお詫びします。